

男子ハンドボールは、桑員大会がないので、県大会が初戦。会場は、相好アリーナ。ネーミングライツが普及してから、会場の名前から地域性が薄れ名前と地理が一致しない代わりに、地元企業等との密着性が高まり、親近感が湧くということを知ったこともある▼「空中の格闘技」と呼ばれるハンドボールの醍醐味は、華麗なシュート。しかし、練習を見ていると、華麗どころか、恐ろしい。あのシュートに立ち向かっていくキーパーは偉大だと思う▼大学時代に、ハンドのキーパーをしていた友だちに「怖くはないのか」と聞いたことがある。彼は、「怖くはない。防げないところにシュートを打とうとするから。むしろ怖いのは、ボールとともに飛んでくる人間だ」と教えてくれた。それを聞いたサッカーのキーパーの友だちは「そうだそうだ、人間が一番怖い」と共感していた。にわかに信じがたい▼攻撃の方が圧倒的に有利何だという。その状況の中で、試合中、何本もシュートを止め、止めるごとにガッツポーズをしていたキーパー君は、わたしの中では、ヒーローだ▼試合は、一進一退の好ゲームだった。スライド上に相手を動かし、最後にサイドがフリーになる場面が一番印象に残った。フェイントが決まって相手を抜き去ってからのシュートもかっこよかった▼イキイキとコートで躍動した子ども達。全力で戦った後の彼らの笑顔は、MVPだ。